

# 第7回学校園の適正規模・適正配置検討委員会

令和6年11月20日 <資料>

- 1) 令和4～6年度長浜市民意識調査（抜粋）
- 2) 視察を終えての委員アンケート
- 3) 地域づくり協議会ヒアリング結果
- 4) 第4回会議（8/26）ワールドカフェ振り返り



# 1) 令和4~6年度長浜市民意識調査 (抜粋)





# 長浜市民意識調査



## 地域別のニーズ得点

※ニーズ得点は「重要度が高く、満足度が低い」項目を定量的に評価する指標。

得点が高いほど、その施策に対する行政需要が強いと考えられる。

※各年度においてニーズ得点が高い地域上位3位まで赤字で表記。

### ・学校での教育環境の充実

	長浜地域	浅井地域	びわ地域	虎姫地域	湖北地域	高月地域	木之本地域	余呉地域	西浅井地域
R6	11.82	11.86	11.54	12.15	11.59	11.96	12.58	11.77	12.70
R5	11.92	11.68	11.93	11.72	12.24	11.62	12.06	11.55	13.01
R4	12.00	11.15	11.62	11.51	11.71	11.92	11.62	12.83	11.10



・地域と学校が連携した教育環境づくり



	長浜地域	浅井地域	びわ地域	虎姫地域	湖北地域	高月地域	木之本地域	余呉地域	西浅井地域
R6	11.71	11.63	11.06	12.01	11.21	11.44	12.56	10.79	12.25
R5	11.47	12.04	12.05	11.32	11.59	11.67	11.08	12.07	13.25
R4	11.63	11.16	11.12	11.21	11.37	11.10	11.78	11.97	11.16



・子育てや教育について相談する体制

	長浜地域	浅井地域	びわ地域	虎姫地域	湖北地域	高月地域	木之本地域	余呉地域	西浅井地域
R6	12.23	12.61	11.37	12.68	11.80	12.80	12.56	12.07	12.73
R5	12.31	12.59	12.62	12.14	12.42	12.60	12.05	12.21	14.14
R4	12.05	11.81	12.41	12.18	11.86	11.88	12.29	12.15	12.50



・小学校に入学するまでの教育の推進

	長浜地域	浅井地域	びわ地域	虎姫地域	湖北地域	高月地域	木之本地域	余呉地域	西浅井地域
R6	11.65	11.35	10.62	11.50	11.39	11.44	12.56	11.24	12.67
R5	11.63	12.12	11.73	11.48	12.25	11.43	11.39	11.80	14.07
R4	11.44	11.21	10.61	11.32	10.87	11.31	11.03	10.78	10.50

・子どもを育てる環境や保育機能の充実

	長浜地域	浅井地域	びわ地域	虎姫地域	湖北地域	高月地域	木之本地域	余呉地域	西浅井地域
R6	12.60	12.74	11.85	13.43	11.99	12.67	13.80	14.02	12.50
R5	12.59	12.82	12.79	14.02	12.97	12.25	12.53	13.80	14.37
R4	12.62	12.05	11.69	12.37	11.91	12.51	12.05	13.09	12.32



## ～市民意識調査から見えること～

- 地域や年度によって、数値にばらつきがあり、分析が難しい。
- 学校再編を行った地域（虎姫、木之本、余呉）や、学校再編を働きかけている地域（木之本、西浅井）で、各項目ともニーズ得点が高い傾向がある。
- 「こどもを育てる環境や保育機能の充実」は、全市的にニーズ得点が高い。



## 2) 視察を終えての委員アンケート



# ～9/10視察（長浜西幼、神照幼）の感想～



## ＜主な意見＞

- きめ細やかな指導がなされ、地域や教育力を活かした園運営をしている。
- 幼稚園の存続は難しく、こども園化等を考える必要がある。
- P T A や園環境の維持管理の負担が大きい。
- 清掃活動等は保護者や地域のボランティアを募れば、P T A 組織を必ずしも維持する必要はない。
- 園区がなければ保護者の就労等に柔軟に対応できる一方、小学校には校区があるため、近隣の園を希望する保護者もある。
- 認定こども園短時部には、幼稚園のような預かり保育がない。
- こども園のみがマンモス化しないような方法があるとよい。



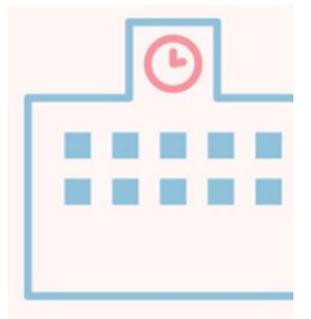


## ～10/9視察（湖北幼、高時小、一麦保）の感想～



### <主な意見>

- ・規模を活かして特色ある教育・保育を実施している。
- ・児童数の減少から、存続の厳しさを感じる。
- ・建物や施設の活用方法を検討し、活かしていけるとよい。
- ・保護者に現状を知ってもらい、早く行政がビジョンを示すべき。
- ・教員配置や施設維持管理の費用対効果を考えることも重要。
- ・行き詰まる前に手を打つ方がいいと考えるが、まだ困っていない地域や学校の将来をどのくらい先まで見通せるか等、難しいと感じた。



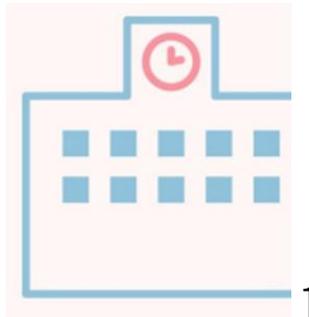


# ～これまでの視察を通じて感じたこと～



## <主な意見>

- ・校園の規模に関わらず、丁寧できめ細やかな指導・保育がなされている。
- ・地域や保護者、進学元および進学先の校園と交流・連携している。
- ・こどもの人間関係や教職員の負担等小規模が故の課題もある。
- ・統合に向けては、こどもや保護者の声を重視しつつ、地域住民等の十分な理解や協力を得ながら進めていく必要がある。
- ・学区を越えた新たな学校施設を構築すべき。
- ・ひとりでも多くの人が、自分たちの地域の校園のことを真剣に考え、協議することが大事。
- ・参考に他市町の適正規模の状況や事例と比較できるとよかった。



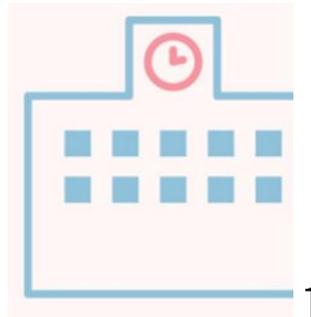
### 3) 地域づくり協議会ヒアリング結果





## ～学校や子どもについて重点的に取り組んでいる地協①～

- ・学校の存続や地域の交流のため、学校を中心に様々な活動をしている。
- ・小学校がなくなった地域からは、加速度的に地域が衰退したという声を聴く。
- ・子どもたちには、いろいろな体験を通して、地域に愛着を持ってほしい。
- ・さまざまなこどもの受け皿、居場所の選択肢のひとつとして小規模校も一定必要。
- ・小学校が統合し、地域からなくなっても地域の子どもに関わる活動は継続したい。



## ～学校や子どもについて重点的に取り組んでいる地協②～



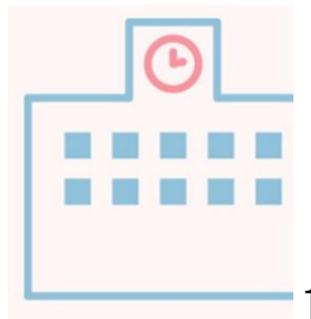
- ・第2期地域づくり計画は子ども中心。地域で小学校を支える、こどもの学びを支える。
- ・地域資源がたくさんあり、授業で取り組み、地域の人が教えている。子ども達が生きる力を身に着けることに力を入れたいと、地域の人も考えている。
- ・小学校がなくなった地域からは、地域の結びつきや様々なことのきっかけだった小学校がなくなったことに加え、高齢化もあり、新しいことを始めるのが難しいと聞く。
- ・こどもの頃に体験で得たものは、大きくなっても、その子に残っている。大事にされている経験や、地域の人、友だちに愛されていること、応援されていることを実感できる経験は、大人になってから人を愛することや、人との関わりの形成につながっていく。
- ・どういう学校が今後必要になっていくのか。学びの多様化や少人数にも対応した学校やしゅくみがあり、自分に合った選択肢を選べるとよい。





## ～学校や子どもについて重点的に取り組んでいる地協③～

- ・学校の存続や地域の交流のため、地域づくり協議会内に子ども支援委員会があり、小学校を中心に様々な活動をしている。
- ・学校がないと、子どもの入学を機に地元に戻る者がいなくなることを危惧する。
- ・子どもたちには、いろいろな体験を通して、地域に愛着を持ってほしい。
- ・実際に社会性や思いやりを持つ子どもが多く、小規模校のデメリットはないと思っている。

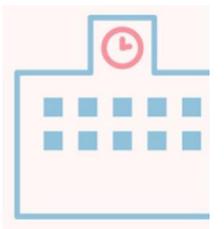




## ～小学校がなくなった地域の地協～



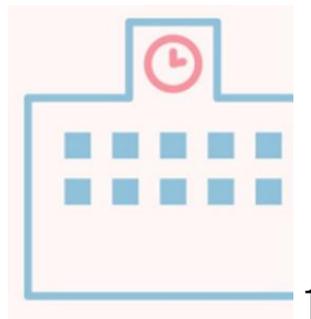
- ・歴史のある学校がなくなり、地域にとっては非常に寂しいことであったが、これからのこどもたちのことを思って統合を選んだ。
- ・こどもの声は聞こえなくなっても、学校だったという土地としての歴史は変わらないから、地域の愛着や思いはある。学校は民間の管理になったが、有志が集まりグラウンドの草刈りなどが行われている。学校だったから大事にしておかないといけないと思っておられる。
- ・新しい学校が今の地域の学校であり、学区内の地域づくり協議会が協力し合い、こどもたちにいろいろな体験をしてもらっている。





## ～小学校、中学校がなくなった地域の地協～

- 学校を核として、学校と地域が相互に協力・交流し活動が行われていたが、学校がなくなり、地域の交流もほとんどなくなってしまった。
- こどもや保護者の声を優先したので、地域からの苦情は知る範囲では聞かないが、こどもの姿や声がなくなったことで、寂しい思いは強い。
- 高齢化が進んでいたため、予想がつかなかったわけではないが、地域の灯が消えてしまい、寂れていく。
- 地域が活性化するような跡地利用に期待している。





## ～北部の地域内に複数の小学校がある地協～



- ・昭和60年頃、小学校の合併について検討したが、当時はまだ旧村の考え方が強く、保護者とさらに上の世代の意見の違いがあり、話がまとまらなかった。
- ・平成2年頃にも統合の話があったが、まとまらなかった。
- ・こどもを持つ親は、クラス替えができる環境の方がよいと思っている。こども園で友達になるのに、小学校が分かれてしまうのはよくないとの声もある。
- ・市が合併して20年が経ち、高齢者の方の思いもそれほど強くなかった。
- ・いずれ小学校の統合は必要だが、よその小さい小学校がまだ存続しているのだから、まだうちの順番ではないと思っている人が多いのではないかと。



## ～南部の地域内に複数の小学校がある地協～



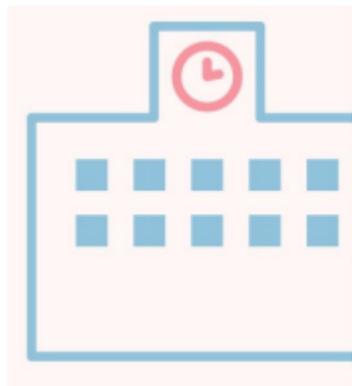
- 地域内に複数の学校があるので、「学校」というよりは「住んでいるこども達」という考え方でアプローチしている。
- このあたりに住んでいると、学校がなくなってしまう感覚はないが、学校が統合されるとグラウンドや園庭等地域の遊び場がなくなり、こども達の居場所がなくなってしまうように感じる。
- 統合と安心して遊べるところを作ることを考えるのはセット。
- 地域に小学生のたまり場的な場所や遊びに行けるところがないので、高学年のこどもはまちセンに来て、宿題をしたり、ゴロゴロしたり自由に過ごしている。
- 人も経費もかかる放課後児童クラブばかりに負担はかけられないので、この地域には負担が少ない児童館の役割が必要ではないかと思っている。

## 4) 第4回会議 (8/26)

### ワールドカフェ振り返り



# 適正規模について



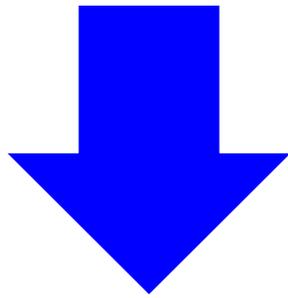
◇小学校 **1 2 学級以上**

◇中学校 **9 学級以上**

- 小中学校においてクラス替えができる規模  
→ 学年×2クラス
- 中学校において免許外指導を避けることができる規模  
→ 1校9学級以上

# 適正配置について

保育所・幼稚園・認定こども園については、子ども的人口は減少傾向であるものの、特に乳児の就園率が年々増加している。



**幼稚園・保育所は集約し、認定こども園へ**



旧田舎の打破  
五の里の村 → 田舎

児童養育園 → 小規模校?

こどもが幸せになる  
学校・園とは

学校の負担軽減から始めよう!  
学校(地域と独立?)  
図は親地での始め  
良い! 図は親地での始め  
負担軽減になる = 出来る  
3:10:30 = 9:17:30  
小規模校の負担軽減  
田舎の学校は大切  
田舎の学校は大切

学校(地域と独立?)  
学校の負担軽減から始めよう!

現 150周年の学校多、か  
200周年は...

校区を縮小  
ex: 沖島小  
地域のしほりと  
無くして行く  
固定観念を  
なくす。  
PTAと  
2:2:1:1  
79.12

選択できる  
学校

合併  
は抵抗がある

① 学区  
② 学区  
③ 学区  
④ 学区  
⑤ 学区  
⑥ 学区  
⑦ 学区  
⑧ 学区  
⑨ 学区  
⑩ 学区  
⑪ 学区  
⑫ 学区  
⑬ 学区  
⑭ 学区  
⑮ 学区  
⑯ 学区  
⑰ 学区  
⑱ 学区  
⑲ 学区  
⑳ 学区  
㉑ 学区  
㉒ 学区  
㉓ 学区  
㉔ 学区  
㉕ 学区  
㉖ 学区  
㉗ 学区  
㉘ 学区  
㉙ 学区  
㉚ 学区  
㉛ 学区  
㉜ 学区  
㉝ 学区  
㉞ 学区  
㉟ 学区  
㊱ 学区  
㊲ 学区  
㊳ 学区  
㊴ 学区  
㊵ 学区  
㊶ 学区  
㊷ 学区  
㊸ 学区  
㊹ 学区  
㊺ 学区

びわ・湖北など  
手の中辺りにホント大きな  
ものを作る! 最低でも2000坪に  
はあ!!

湖北というはりを必ず

学校単位  
学校のみで  
考えたのは  
いけないのでは?

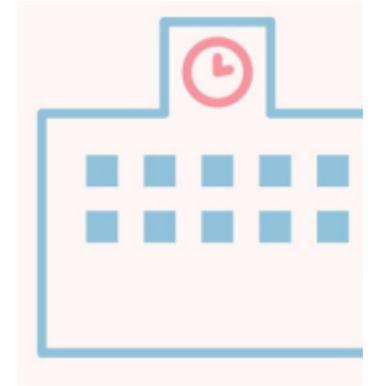
8月26日 ワールドカフェ  
「こどもが幸せになる学校園とは」

# 子どもが幸せになる学校園とは



# 子どもが幸せになる学校園とは

ワールドカフェから見えたキーワード



学 校

園

規 模

地 域

こども

先 生

保護者

制 度

学 区

みんな

